

脳卒中に対する静脈内 t-PA 投与後の 血管内治療と t-PA 単独治療効果は同じ

血管内治療は、中等度から重症の急性虚血性脳卒中患者の静脈内ヒト組織プラスミノゲン活性化因子（t-PA）の投与後、頻繁に行われるようになってきた。しかし、この併用が静脈内 t-PA 単独で行うより効果的であるのかは不確実である。

そこで、脳卒中の発現後 3 時間以内に静脈内 t-PA の投与を受けた患者に対し、2 : 1 の比率で血管内治療または静脈内 t-PA 投与を単独で施行した。

656 人の患者を割りつけた時点で研究を終了した。434 人に血管内治療、222 人に静脈内 t-PA 投与を行った。

その結果、90 日間の致死率および初回の静脈内 t-PA 投与後 30 時間内の症候性脳内出血の発現率は、血管内治療と静脈内 t-PA 投与の両グループ間で同程度であった。

たがって、静脈内 t-PA 投与後に血管内治療を行った場合と、静脈内 t-PA 投与を単独で行った場合とで、同等に安全な治療結果がみられたといえる。

（出典：New England Journal of Medicine. 2013; 368:893-903）